

# おーゆ・ランド (皆生温泉観光株式会社)



**事例** 省エネ診断で社内の取り組みが加速！  
温泉地の強みを生かした省エネ対策も検討中！

- 所在地: 米子市皆生温泉1丁目18-1
- 代表取締役社長: 坂内和孝
- 事業概要: ホテルを併設した皆生温泉の日帰り温浴施設



## Q. 省エネ診断を受けるに至った背景は。

A. 重油の高騰などエネルギーコストの削減が長らく経営の課題でした。これまで十分な省エネ対策ができていない中で省エネ診断機関からの勧めもあり、ボイラー設備の更新をにらみつつ、省エネ改善への第一歩として、現場のエネルギー使用量を客観的に把握してみることにしました。



▲温泉施設管理部の小藤課長

## Q. 省エネ診断の負担感はどうでしたか。

A. 国の9割補助もあり、決断は早かったです。2024年度に診断を受けるため、重油や電気、ガスの年間使用量が分かる23年度のデータを提出。施設が広いので現場確認やヒアリングなど計2、3日がかりの診断でしたが、煩わしさはなかったです。



鳥取県・企業の脱炭素経営促進事業 / 県内企業の取り組み事例

# トットリポーン!

支援制度やその他の事例はホームページをご確認ください



## Q. 省エネ改善に向け、どのような提案を受けましたか。

A. 照明のLED化、ボイラー配管の保温対策や共用部の空調管理のためのエネルギー管理システム導入など多岐にわたる省エネ改善提案を受けました。対策の効果を数値で「見える化」できたのは有意義で、現場も「何とかしないとイケない」と危機感を強めるきっかけになりました。

## Q. 経費削減、熱エネルギーの効率化の視点で、今後描くビジョンは。

A. 給湯用の重油ボイラーを廃止して、温泉熱を有効活用できる熱交換システムの導入を検討しています。実現すれば、年間3割程度の光熱費の削減が見込まれます。重油の使用量削減に応じて、CO<sub>2</sub>の排出量も大幅に減りそうです。省エネ診断を機に脱炭素経営に大きく舵を切ることになりました。温泉熱を生かせる皆生の強みを実証し、各旅館に伝播するような取り組みになればと考えています。



▲丸い湯船が特徴の「おー風呂」

## 省エネ診断による提案内容(一部)

提案内容	種類	CO <sub>2</sub> 削減量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	費用削減量 (万円/年)
照明のLED化	設備投資	40.1	392
ボイラー配管の保温対策	設備投資	1.1	4
共用部空調のエネルギー管理システム導入	設備投資 運用改善	9.6	120
合計		50.8	516

